

ゲノム操作食品学習会

ゲノム編集、やはり問題あり！

～どうしたら歯止めをかけられるか～

遺伝子組み換え食品が出回り始めて約 20 年。遺伝子进行操作する生命科学が進み、遺伝子組み換え技術より効率的な技術としてゲノム編集技術が登場しています。それを応用した作物が作られ、食品として食卓に上る日も間近になってきました。1996 年に私たちの食卓に遺伝子組み換え大豆やトウモロコシが登場して以来、一貫して遺伝子組み換え食品の問題を訴えてきた安田節子さんに、ゲノム編集食品は何が問題か、市民はどう歯止めをかけられるかを明快に語っていただきます。

と き : 2018 年 **1 月 29 日 (月)** 13:30~16:00

ところ : **飯田橋セントラルプラザ 学習室 A (16 階)**

JR・地下鉄「飯田橋駅」1 分

◆講師◆ **安田節子さん** (食政策センター ビジョン 21 主宰人)

資料代 : 500 円



◆講師プロフィール

2000 年まで日本消費者連盟で反原発運動や食の安全と食糧農業問題を担当。遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン事務局長として表示や規制を求める全国運動を展開。埼玉大学非常勤講師などを経て現在は「食政策センター ビジョン 21」主宰人。NPO 法人「日本有機農業研究会」理事。

主催 : NPO 法人 日本消費者連盟 / 遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン

[問合せ] 日消連 ☎03-5155-4765/fax:03-5155-4767/email:office.j@nishoren.org

◆日本消費者連盟

1969年創立の消費者団体。「すこやかないのちを未来につなぐ」をモットーに、企業や国家の利益よりも人のいのちや健康を優先する世の中に変えたいと活動している。機関誌『消費者リポート』を発行

◆遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン

遺伝子組み換え(GM)食品の輸入が認められた1996年に生産者や消費者が集まって設立。GM 食品を「食べない、売らない、作らない」の理念のもと、GM 食品のない世界を目指して活動している